

告 辞

寒さ厳しい冬が過ぎ、桜の開花だよりも近い春到来の息吹が感じられる季節となりました。今日の佳き日に、ご来賓ならびに保護者の皆様をお迎えして、大分工業高等専門学校本科第五十六回卒業式並びに専攻科第十九回修了式を挙行できますことは、本校にとって誠に大きな慶びです。本年度が開校六〇年目となる大分高専に対して、本日ご列席の皆様から平素より賜っておりますご指導、ご支援に厚く御礼を申し上げます。

本式典の挙行に際し、新型コロナウイルス感染症への新たな対応方針が文部科学省や大分県から示されたことを踏まえ、本校においては、学校生活の中で節目となる重要な行事であり、学生にとってもかけがえのない機会であることの教育的意義に鑑み、卒業証書授与や送辞・答辞などの場面の当事者はマスクを外しても差し支えないこととし、それ以外ではマスクの着用をお願いすることにしました。また、会場での出席者の座席間の距離を確保するため、保護者の方には人数制限を設定させていただきました。本日の式典を学内のレクチャーホールでライブ配信をご覧いただいている保護者の皆様には、特にご不便をおかけしています。新型コロナ前とは異なる式典となりましたことをご容赦頂くとともに、皆様のご理解とご協力に対しまして、心より御礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書とともに準学士の称号を授与されました本科卒業生百六十四名の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。皆さんは中学校を卒業し、期待と一抹の不安を抱えて本校に入学してから、五年間一貫教育の長い階段を一段一段着実に登ってきました。体系的に編成された基礎および専門の講義・実験・実習・インターンシップなどを通して実践的な専門技術を学び、さらに卒業研究により未知の課題に取り組む、解決する力を修得されました。同時に、日々の学校生活での先生方や友人との触れあい、クラブ活動や学生会、コンテスト等を中心とした様々な課外活動を通じて、人間性を磨いてこられました。その結果として、ここに大きな成長を遂げ、本日卒業を迎えられました。皆さんの人生において記念すべきこの時に本校の教職員を代表して、心から皆さんにお祝いを申し上げます。

専攻科でさらに二年間の専門性の高い教育研究を続けられた三十四名の修了生の皆さん、専攻科の修了証書とともに、学士（工学）の学位が授与され、加えて、国際的な教育水準を認定する日本技術者教育認定機構 JABEE 認定の「システムデザイン工学プログラム」の修了証も取得されました。本科と合わせて七年間の勉学の継続が実を結び、ここに新たな旅立ちの日を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

卒業生・修了生の皆さんの在学中は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、約3年間も新型コロナ対応の学校生活を送ることになりました。令和2年度は高専体育大会や学校行事等も中止になるなど、心身ともにストレスを感じたと思います。その後、ワクチンや治療薬の開発が進み、最終学年となった令和4年度は、当初の日程通り、本校の三大祭りである体育祭、高専祭、音楽祭等を、保護者の皆さまにもご来場いただける形式で開催できましたが、卒業生・修了生の皆さんにとって、高専生活を彩る良い思い出になっていれば、とても嬉しいことです。そして、在学中の様々な困難を乗り越えた体験は、皆さん方を一段と成長させたと信じています。

大分高専をこれまでに巣立った本科卒業生は七千八百六名、そして専攻科修了生が四百三十六名であり、先輩達は国内外の様々な分野で活躍されています。就職先の企業や進学先の大学からは「大分高専の卒業生はまじめで実践力を備え、優秀である」との高い評価を戴いています。このような本校卒業生・修了生に対する社会からの高い評価は、何よりも卒業生・修了生の社会での立派な活躍の賜物です。四月からは、技術者として実社会に出る人、大学や大学院に進学する人と進む道はそれぞれ異なりますが、常に、先輩たちが築いてこられた大分高専の伝統と誇りを受け継ぎ、それぞれの道で未来を築くことを願っています。

皆さんは、その基礎となる、技術者が備えるべき知識や能力を、本校における一貫教育を通じて確実に身につけています。その知識や能力は、これからの新たな環境における皆さん方の基礎となるものです。その中でも、特に強調したいことが二つあります。

一つは、「愛の精神」です。本校正門のモニュメントにも刻まれています。この言葉は、本校の初代校長である松尾春雄先生が「AMOR OMNIA VINCIT」（アモール・オムニア・ビンキット）愛は全てに打ち勝つというカール・ヒルティの言葉とともに提唱され、本校で60年間脈々と培ってきた「大分高専の魂」と言える言葉です。科学技術の進歩は、今日の便利で豊かな社会の構築に貢献したことは事実ですが、人類の平和と幸せな環境を実現するために、正しく駆使する「愛の精神」は必要不可欠な要素です。そして、科学技術が進歩した今日においても、社会的課題はより一層深刻な事態を招いています。地球規模での環境問題やエネルギー問題などが喫緊の課題として認識されており、国際的にもSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）が、持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標になっています。まさに、「愛の精神」を持って対処すべき課題であり、その素養を身につけた皆さん方が、果敢にチャレンジして、課題解決に貢献することを願っています。

二つ目は、「自主的、継続的に学習する能力」です。在学中は先生方の講義等を受けて、新たな知識や技術を獲得してきました。もちろん、皆さんは日々の学習や定期試験に備えた学習を継続的に行い、学習する能力を高めてきました。学校では、修得すべき新たな知識や技術は先生方によって示されましたが、社会では、その知識や技術も自らが選択する必要があります。科学技術の進歩は速く、高専で学んだことを絶えずアップデートする、学び続ける力が必要です。自ら学ぶ姿勢に卒業はありません。産業構造の変化や技術革新が加速する社会において、自らの知識や技術を高めていくリスキリングやアップスキリングに努め、自らを磨き続けて下さい。

本日の卒業式・修了式は、皆さん方の新たな旅立ちのスタートラインでもあり、大分高専はこれからも皆さん方を応援しています。ときには、先生方に近況を伝えたり、また課題などを相談したりして、母校を訪問してくれることを願っています。

さて、卒業生・修了生の皆さんを、入学以来今日まで支え、励まして来られた保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。皆様におかれましては、今日という日を待ち望んでおられましたことと拝察します。今、成長されたご子息、ご息女の晴れ姿に万感の思いでご臨席戴いていることと存じます。本日まで本校に対して、ご支援をいただきましたことに、厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、大分高専を巣立っていく皆さんの進む道が、希望と発展の光輝く道となることを祈り、本日の告辞といたします。

令和五年三月十七日

独立行政法人国立高等専門学校機構
大分工業高等専門学校長 山口 利幸